

研究・調査報告書

報告書番号	担当
6 5	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Alcohol consumption and risk of Hodgkin's lymphoma and multiple myeloma: a multicentre case-control study.</p> <p>アルコール摂取とホジキンリンパ腫および多発性骨髄腫リスクとの関連：多施設症例-対照研究</p>	
執筆者	
Gorini G, Stagnaro E, Fontana V, Miligi L, Ramazzotti V, Amadori D, Rodella S, Tumino R, Crosignani P, Vindigni C, Fontana A, Vineis P, Seniori Costantini A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Ann Oncol. 2007 Jan;18(1):143-8.	
キーワード	
アルコール、症例-対照研究、ホジキンリンパ腫、多発性骨髄腫	
要 旨	
<p>背景： アルコール摂取とホジキンリンパ腫および多発性骨髄腫発症の関連を検討した研究は少ない。</p> <p>方法： ホジキンリンパ腫症例 363 人、多発性骨髄腫症例 270 人、対照 1771 人を含んだ地域住民対象の多施設症例-対照研究データを解析することによりアルコール摂取とホジキンリンパ腫および多発性骨髄腫発症の関連を検討した。無条件ロジスティック解析を用いてアルコール摂取（1週間飲酒回数、1日飲酒量[g]、飲酒年数）と両疾患発症リスクのオッズ比(OR)および95%信頼区間(CI)を求めた。</p> <p>結果： ホジキンリンパ腫について非喫煙者のみに関して解析したところ、1度でも飲酒した群は未飲酒群に比べて有意に発症率が低かった(OR=0.46)。有意なリスク低下はどの飲酒量群でも認められた。すなわち1週間の飲酒回数については非飲酒群を基準とすると週に1-4回の飲酒群ではOR=0.51, 95%CI 0.32-0.82; 5-9回の飲酒群ではOR=0.39, 95%CI 0.21-0.73; 10-19回の飲酒群ではOR=0.26, 95%CI 0.12-0.54; 20回以上ではOR=0.34, 95%CI 0.15-0.79であった。また1日飲酒量別にみる0.1-9.0gではOR=0.45, 95%CI 0.27-0.74; 9.1-17.9gではOR=0.52, 95%CI 0.30-0.90; 18.0-31.7gではOR=0.27, 95%CI 0.13-0.57; 31.7gを超える群ではOR=0.35, 95%CI 0.15-0.79であった。喫煙者では飲酒群と未飲酒群は同様のリスクであった。多発性骨髄腫については有意ではなかったが飲酒群は未飲酒群に比べて発症リスクが低かった(OR=0.74)。飲酒量別にみると1グループ以外に有意差はなかった(0.1-9.0g/日ではOR=0.93; 9.1-17.9g/日ではOR=0.82; 18.0-31.7g/日ではOR=0.47; 95%CI 0.28-0.81; >31.7g/日ではOR=0.68)。ホジキンリンパ腫、多発性骨髄腫とも酒類別には効果の差はなかったし、飲酒量と飲酒期間の両方を考慮しても明らかな用量依存性効果もみられなかった。</p> <p>結論： 本研究により非喫煙者に対して飲酒がホジキンリンパ腫発症を予防する効果があることが判明した。</p>	